

都市再生整備計画 事後評価シート

緑ヶ丘地区

平成29年3月

山形県山辺町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山形県		市町村名	山辺町		地区名	緑ヶ丘地区		面積	22.4ha		
交付期間	平成24～28年度		事後評価実施時期	平成28年度		交付対象事業費	443百万円	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	事業名											
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	長沼公園、1号街区公園(緑ヶ丘1号公園)、2号街区公園(緑ヶ丘2号公園)、3号街区公園(緑ヶ丘3号公園)、緑ヶ丘コミュニティセンター									
		提案事業	事業評価分析									
	当初計画から削除した事業	基幹事業										
		提案事業	まちづくりワークショップ支援		町内全体を対象とした同様のまちづくり事業(地域コミュニティ推進事業)を平成27年度に創設したため、緑ヶ丘地区のみを対象としていた本事業は削除した。				影響なし			
	新たに追加した事業	基幹事業										
提案事業												
交付期間の変更	当初	平成24～28年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
	変更	同上										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	緑ヶ丘コミュニティセンター利用状況	人/年	102	H23	400	H28	880	○	あり	地域活動の拠点施設として、住民の意向を取り入れたコミュニティセンターを整備したことで、地域コミュニティの形成が促され、地域の行事や各種団体の活動等が活発に行われたことで、施設利用者が大幅に増加した。	平成29年4月末
									なし	また、各種公園の整備によって良好な居住環境が形成されたことによる緑ヶ丘地区の居住人口の増加が同センターの利用者増にも寄与している。		
	指標2	定住人口	人	657	H23	850	H28	1,005	○	あり	嶋ノ前土地区画整理事業により、地区のほぼ中心部に大規模商業施設がある良好な居住環境が整備されており、町全体としては人口減少が続く中、居住人口の増加となっている。	
								なし	本計画に基づき、整備したコミュニティセンター及び公園も良好な居住環境の形成という面で、目標達成に寄与している。			
指標3	防災対策に対する満足度	%	17	H23	25	H28	30	○	あり	災害時には一時避難場所や福祉避難所として機能するコミュニティセンターや公園を整備したほか、各施設を整備する際に実施したワークショップなどで、災害時を想定した利用についても話し合われたことなど、一連の取り組みが防災意識を高めるキッカケとして作用したと思われる。		
指標4									あり			
									なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1											
その他の数値指標2												
4)定性的な効果発現状況												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	【当初計画】H24とH26の2回実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 事業計画の見直しによる全体事業費の精査によりモニタリングは中止した。				
	住民参加プロセス	①住民団体による事業の検討や実施に対する支援(まちづくりワークショップ支援(まちづくり活動推進事業)) ②個別事業ごとの説明会やワークショップ		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				①町が実施する地域コミュニティ推進事業にて、各地区の特色を活かしたまちづくりの推進を支援する。 ②住民参加型の事業計画による施設整備を行うことで、地域住民の親しみや愛着の形成を図り、各施設の美化や保全意識の向上につなげたい。				
	持続的なまちづくり体制の構築	今後のまちづくり活動に結びつく組織立ち上げに期待		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 町独自の地域コミュニティ推進事業を立ち上げ、地区自治活動の推進体制となる緑ヶ丘地区ブロック協議会の設立を支援(平成27年度)。地域コミュニティ推進事業を活用するなどして今後も活動を支援していく。				

様式2-2 地区の概要

緑ヶ丘地区(山形県山辺町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	数値	年度	数値	年度	数値	年度
大目標:安全・安心で快適な居住環境と官民協働のまちづくり	緑ヶ丘コミュニティセンター利用状況	人/年	102	H23	400	H28	880	H28
目標1:官民協働によるコミュニティの拠点づくり	定住人口	人	657	H23	850	H28	1,005	H28
目標2:安心して住み続けることのできる居住環境の形成とコミュニティの充実	防災対策に対する満足度	%	17	H23	25	H28	30	H28



緑ヶ丘コミュニティセンター(外観)



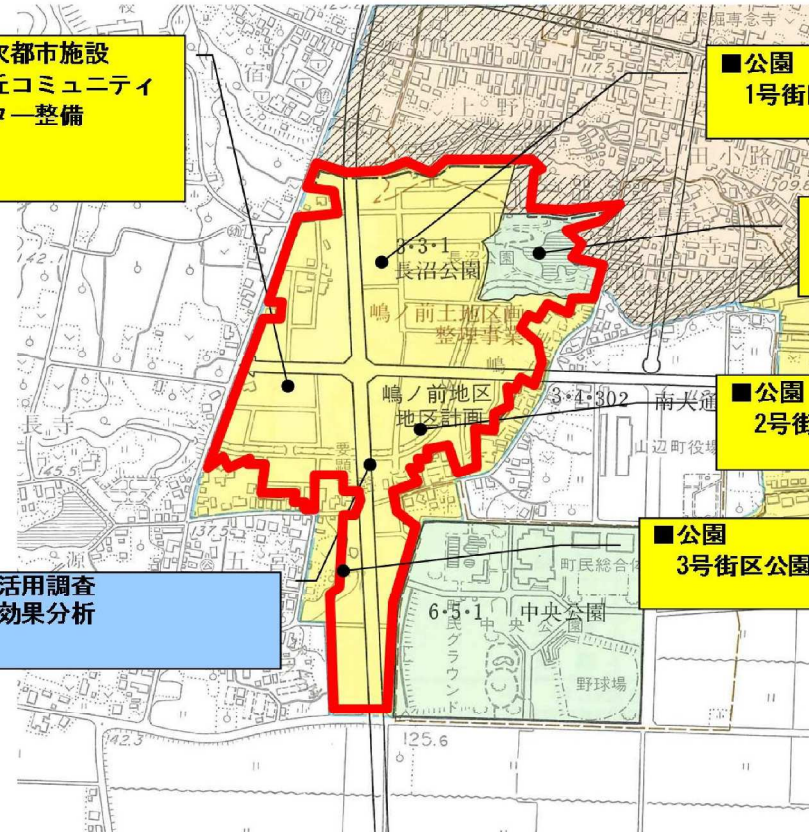
緑ヶ丘コミュニティセンター(内装)



3号街区公園(緑ヶ丘3号公園)

■高次都市施設
緑ヶ丘コミュニティ
センター整備

□事業活用調査
事業効果分析



■公園
1号街区公園整備

■公園
長沼公園整備

■公園
2号街区公園整備

■公園
3号街区公園整備



1号街区公園
(緑ヶ丘1号公園)



長沼公園



2号街区公園
(緑ヶ丘2号公園)

まちの課題の変化

・当初課題の「コミュニティの拠点づくりが必要」という当初課題に対して、本事業で緑ヶ丘コミュニティセンターを整備した。
 ・当初課題の「憩いの場となる環境の不足」という当初課題に対して本事業で3つの公園を新設し、長沼公園の施設充実を行ったが、公園の使い方や植栽等の管理に対する住民の不満がみられる。
 ・新たな課題として、通学や交通環境の改善に関する住民意向への対応や、コミュニティセンター・公園の利用マナーの改善や維持管理について住民の理解や協力を得ながら取り組んでいく必要がある。

今後のまちづくり
の方策
(改善策を含む)

・緑ヶ丘コミュニティセンターを核としたまちづくり活動への支援 ・住民参加による公園や街路樹の維持管理の促進 ・施設使用者のマナーアップ ・通学・交通環境の改善

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他(計画期間・交付期間)		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園	長沼公園	76	近隣公園(A=19,949㎡)整備	55.5	当初計画と同じ	H26変更時に、当時の進捗状況などを踏まえ、本計画に位置付けた事業を総合的に見直し、事業期間、事業費を変更。	影響なし		●(H29.3)
公園	1号街区公園(緑ヶ丘1号公園)	33	街区公園(A=1,930㎡)整備	46.4	当初計画と同じ	H26変更時に、当時の進捗状況などを踏まえ、本計画に位置付けた事業を総合的に見直し、事業期間、事業費を変更。	影響なし		●(H29.3)
公園	2号街区公園(緑ヶ丘2号公園)	35	街区公園(A=1,470㎡)整備	30.0	当初計画と同じ	H26変更時に、当時の進捗状況などを踏まえ、本計画に位置付けた事業を総合的に見直し、事業期間、事業費を変更。	影響なし	●	
公園	3号街区公園(緑ヶ丘3号公園)	38	街区公園(A=1,638㎡)整備	38.0	当初計画と同じ	H26変更時に、当時の進捗状況などを踏まえ、本計画に位置付けた事業を総合的に見直し、事業期間、事業費を変更。	影響なし		●(H29.3)
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設									
高次都市施設	緑ヶ丘コミュニティセンター	180	地区コミュニティセンター(地域交流センター)整備	271.4	当初計画と同じ	H26変更時に住民意向を踏まえた整備内容に見直し、事業期間、事業費を変更。	影響なし	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし			
指標1	緑ヶ丘コミュニティセンター利用状況	人/年	・1年間(4月～翌3月)の緑ヶ丘コミュニティセンターにおいて開催する行事に参加する延べ人数 【政策推進課所管の同施設の利用申込参加人数から把握。】			102	H23	400	H28	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 ●	880	事後評価	○		
指標2	定住人口	人	・緑ヶ丘地区の9月30日現在の居住人口。 【町民生活課所管の住民基本台帳から把握。】			657	H23	850	H28	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 ●	1,005	事後評価	○		
指標3	防災対策に対する満足度	%	・居住者を対象としたアンケート調査における「防災施設(避難場所など)」に対する満足度(「満足」「やや満足」の合計)。 【建設課が平成28年10月に実施したアンケート調査結果から把握。】			17	H23	25	H28	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 ●	30	事後評価	○		

指標	目標達成度の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	地域活動の拠点施設として、住民の意向を取り入れたコミュニティセンターを整備したことで、地域コミュニティの形成が促され、地域の行事や各種団体の活動等が活発化し、施設利用者が大幅に増加した。また、各種公園の整備によって良好な居住環境が形成されたことによる緑ヶ丘地区の居住人口の増加が同センターの利用者増にも寄与している。	
指標2	嶋ノ前土地区画整理事業により、地区のほぼ中心部に大規模商業施設がある良好な居住環境が整備されており、町全体としては人口減少が続く中、居住人口の増加となっている。本計画に基づき、整備したコミュニティセンター及び公園も良好な居住環境の形成という面で、目標達成に寄与している。	
指標3	災害時には一時避難場所や福祉避難所として機能するコミュニティセンターや公園を整備したほか、各施設を整備する際に実施したワークショップなどで、災害時を想定した利用についても話し合われたことなど、一連の取り組みが防災意識を高めるキッカケとして作用したと思われる。	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度					
その他の 数値指標1			-	-	-	-	モニタリング	-	-		
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2			-	-	-	-	モニタリング	-	-		
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
【当初計画】H24とH26の2回実施	予定どおり実施した	● 平成26年変更時にモニタリングを削除。	今回の事後評価にて行ったアンケート結果を庁舎内で共有し、各セクションにおいて現状の把握と課題の整理により今後の施策検討の一助としたい。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 各事業の見直しによる全体事業費の精査によりモニタリングは中止した。)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
住民団体による事業の検討や実施に対する支援(まちづくりワークショップ支援(まちづくり活動推進事業))	予定どおり実施した	● 平成26年変更時に削除。	町が実施する地域コミュニティ推進事業にて、各地区の特色を活かしたまちづくりの推進を支援する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 町全体を対象とした同様のまちづくり事業(地域コミュニティ推進事業)を創設(平成27年度)したため、緑ヶ丘地区のみを対象としていた本事業は削除した)		
個別事業ごとの説明会やワークショップ	予定どおり実施した	● 個別事業において、ワークショップや説明会を催し、住民の意見反映に努めた。	住民参加型の事業計画により、地域住民が親しみや愛着を持つことができる施設として整備することで、各施設の美化や保全意識の向上につなげたい。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
今後のまちづくり活動に結びつく組織立ち上げに期待	予定どおり実施した	● 町独自の地域コミュニティ推進事業を立ちあげ、地区自治活動の推進体制となる緑ヶ丘地区ブロック協議会の設立を支援(平成27年度)。	● 緑ヶ丘地区ブロック協議会	地域コミュニティ推進事業を活用するなどして今後も活動を支援していく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	関係課(建設課、政策推進課、教育課) 職員(課長・係長・担当者)	平成28年12月27日	建設課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3			
指標名		緑ヶ丘コミュニティセンター利用状況		定住人口		防災対策に対する満足度			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	長沼公園	○	地域活動の拠点施設として、住民の意向を取り入れたコミュニティセンターを整備したことで、地域コミュニティの形成が促され、地域の行事や各種団体の活動等が活発に行われたことで、施設利用者が大幅に増加した。また、各種公園の整備によって良好な居住環境が形成されたことによる緑ヶ丘地区の居住人口の増加が同センターの利用者増にも寄与している。	○	嶋ノ前土地区画整理事業により、地区のほぼ中心部に大規模商業施設がある良好な居住環境が整備されており、町全体としては人口減少が続く中、居住人口の増加となっている。本計画に基づき、整備したコミュニティセンター及び公園も良好な居住環境の形成という面で、目標達成に寄与している。	○	災害時には一時避難場所や福祉避難所として機能するコミュニティセンターや公園を整備したほか、各施設を整備する際に実施したワークショップなどで、災害時を想定した利用についても話し合われたことなど、一連の取り組みが防災意識を高めるキッカケとして作用したと思われる。		
	1号街区公園(緑ヶ丘1号公園)	○							
	2号街区公園(緑ヶ丘2号公園)	○							
	3号街区公園(緑ヶ丘3号公園)	○							
	緑ヶ丘コミュニティセンター	◎							
提案事業	事業評価分析	-		-		-			
関連事業	嶋ノ前土地区画整理事業	◎		◎		◎			

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も地区行事などの場として多くの人々に利用していただけるよう適正な維持管理を図る。	緑ヶ丘地区の良好な居住環境の維持という面から適正な維持管理を図る。	各施設において、防災訓練などで災害時の利活用の方法を把握してもらうよう促す。
-------	--	-----------------------------------	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別													
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業													
提案事業													
関連事業	嶋ノ前土地区画整理事業												

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)				
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	関係課(建設課、政策推進課、教育課) 職員(課長・係長・担当者)	平成28年12月27日	建設課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載した まちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
<p>◆コミュニティの拠点づくりが必要である。 地区でコミュニティ活動を行う環境が整っていないことから、ソフト、ハードの両面からコミュニティ形成の支援と拠点づくりを住民参加による官民協働で進める必要がある。</p>	<p>◆地区のコミュニティ活動の拠点となる緑ヶ丘コミュニティセンターを整備した。 ◆本施設の整備により、住民アンケートにおける「自治活動に対する満足度」は大幅に向上(9%(H23)→27%(H28))、「欲しい施設として町内会など行える施設があげられる割合」は大幅に低下(41%(H23)→1%(H28))している。</p>	特になし	<p>◆コミュニティセンターや公園などの地域コミュニティを形成する基盤施設の整備が進んだことにより、住民の意向が外灯や横断歩道の整備などの通学や交通環境の改善にシフトしている。 ◆新設したコミュニティセンターや公園の利用マナーの改善や維持管理について、住民の理解や協力を得ながら取り組んでいく必要がある。</p>
<p>◆憩いの場となる環境が不足している。 嶋ノ前土地区画整理事業が終盤を迎え、居住者が増えつつある現在、住民の憩いの場となり災害時の避難場所となる公園整備に立ち後れがみられるため、快適で安全安心な居住環境の形成を進める必要がある。公園整備にあたっては、住民参加による官民協働で公園整備内容について検討するとともに、維持・管理についての検討も進める。</p>	<p>◆災害時には避難場所にもなる緑ヶ丘1～3号の3つの公園を新設し、長沼公園の施設充実を行った。 ◆本施設の整備により、住民アンケートにおける「防災施設(避難場所など)に対する満足度」も向上(17%(H23)→30%(H28))している。</p>	住民アンケートでは、公園の使い方や植栽等の管理に対する不満も見受けられた。官民連携による適正な維持管理をしていく必要がある。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	緑ヶ丘コミュニティセンターを核としたまちづくり活動への支援	緑ヶ丘コミュニティセンターを拠点としたまちづくり活動に携わることで、自らの町(緑ヶ丘)に愛着を持ち、世代を超えて住み続けることができるように、自治活動などの住民によるまちづくり活動に対して支援を行う。また、より使いやすい施設となるよう什器の補充などを図る。	・地域コミュニティ推進事業
	住民参加による公園や街路樹の維持管理の促進	地区の自治組織や子ども会などの協力による公益施設の美化活動に取り組みながら、この活動などを通じてより多くの住民が愛着や親しみを持ち関わっていくことによって保全意識の持続化を促す。	・地域コミュニティ推進事業

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	施設使用者のマナーアップ	小学生を対象とした公園利用マナーの向上に係る啓発活動を行い、公園の美化や保全意識の形成を図る。	・小学生を対象とした出前講座
	通学・交通環境の改善	通学路への外灯整備や公園に向かうための横断歩道の設置などの通学・交通環境の改善を図る。	・通学、交通環境改善事業(要検討)

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画				
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項		
指標1	緑ヶ丘コミュニティセンター利用状況	人/年	102	H23	400	H28	確定	●	880	○	あり	→	平成29年4月末	平成28年度の行事参加者確定数を政策推進課から入手	
							見込み								
指標2	定住人口	人	657	H23	850	H28	確定	●	1,005	○	あり	→			
							見込み								
指標3	防災対策に対する満足度	%	17	H23	25	H28	確定	●	30	○	あり	→			
							見込み								
指標4							確定				あり	→			
							見込み								
その他の数値指標1							確定					→			
							見込み								
その他の数値指標2							確定					→			
							見込み								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・事業効果の対比が可能な数値目標を設定していたため、評価値の把握を円滑に進めることができた。	・数値目標は把握方法を明確化し、事業効果の発現による対比が可能な項目を選定する。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・施設整備を計画する際にワークショップを実施し、住民の意向を反映させた設計としたことで、多くの住民に愛着や親しみを持たれる施設となり、保全意識の向上などが図られた。 ・成果指標の設定及び達成状況の確認にアンケートを用いたことにより、住民の意向の推移が明確化し、今後のまちづくりを行う課題を的確に把握することができた。 ・緑ヶ丘コミュニティセンターは、ワークショップにおける住民意向を反映させた整備(出入口の設定)をしたことで、住民が使いやすい利便性の高い施設となった。	・事業に伴うワークショップを積極的に行い、住民の意見が計画に反映されるというプロセスを踏むことで、愛着や親しみが形成されやすくなり、保全意識の向上が図られる。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の社会資本整備総合交付金(旧まちづくり交付金)の活用予定
なし

・今後、事後評価を予定する地区
平成31年度に、山辺地区(第2期)の事後評価を実施予定。当地区及び山辺地区(第1期)の経験を踏まえた円滑な事後評価実施に努める。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	平成29年1月16日～2月10日	平成29年1月16日～2月10日	担当課への直接提出、 郵送、FAX、メール	建設課
広報掲載・戸別配布	広報に原案の概要を掲載	平成29年1月15日号	平成29年1月16日～2月10日		
説明会・ワークショップ					
その他	町のホームページ掲載に併せて各支所・公民館に原案を配置	平成29年1月16日～2月10日	平成29年1月16日～2月10日		

住民の意見	
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	青木 俊明(東北大学大学院 国際文化研究科准教授)	平成29年3月17日	建設課	山辺町都市再生整備計画事後評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	齋藤 邦彦(山辺町議会厚生産業常任委員会 委員長) 齊藤 昭彦(山辺町都市計画審議会 会長) 渡邊 成(緑ヶ丘地区ブロック協議会 会長) 大通 英樹(緑ヶ丘地区ブロック協議会 防犯・防災部長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・評価結果については了承された。 ・ただし、成果指標の目標値達成は評価できるが、特に定住人口については、設定した目標値が妥当であったかという疑問もある。次回以降目標値を設定する場合は根拠を精査すべきという意見を得た。
	実施過程の評価	・実施過程については、適正であると確認された。 ・ただし、緑ヶ丘コミュニティセンターが、住民参加のワークショップの意見を取り入れ整備した結果、利便性が高くなったという実績を表記すべきという意見を得た。
	効果発現要因の整理	・効果発現要因については、了承された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案が、町民に対して適正に公表されたことが確認された。
	その他	・本計画の対象となった緑ヶ丘地区は、町全体としては人口減少が続く中人口増となっており、本事業の効果も含めまちづくりが概ね良好に進んでいることが確認された。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・今後のまちづくり方策については、了承された。
	フォローアップ	・フォローアップは適正と認められた。
	その他	・文言としての「愛着」や「親しみ」の使い方を整理すべきという意見を得た。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当と認められた。
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
特になし		

有識者の意見	
--------	--